

---

# 自分の親は殺し屋でした。

ミス・レヴィ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

自分の親は殺し屋でした。

### 【Nコード】

N5010K

### 【作者名】

ミス・レヴィ

### 【あらすじ】

ミリタリー好きの高校生 圭一は、神のミスにより事故って転生。普通は転生といえば異世界なんだろうけど、現代の日本に女の子になって転生。赤ん坊からやり直し普通は地獄だけど えっこれ天国でしょ だって母と父の各自の部屋に秘密の部屋への隠し階段があって、その先には重火器がいっぱい。やっほーいな空間何だもん。

遺伝子のおかげで射撃の腕、潜入技術はプロ。小学6年生にして月給3000万。転生前より金持ち!!! だけど、女ってorz

IFの書いてあります。<http://ncode.syosetu.com/n4249m/>

【0人目】俺（イブ）誕生！！

オッス、おらまー。

もう神に会った話はすっ飛ばすな（どうせ見ないだろうから）

結論から言わせてもらつと転生することになった。しかも特典なし  
でorz

んでもって、まばゆい光に包まれて 現在目の前が真っ暗なんだ  
しかもとつてもくるしい。

いや、

マジで死にそう。ほんと冗談抜きで

・ ・ ・ ・ ・  
・ ・ ・ ・ ・  
・ ・ ・ ・ ・  
・ ・ ・ ・ ・  
・ ・ ・ ・ ・  
・ ・ ・ ・ ・  
・ ・ ・ ・ ・  
・ ・ ・ ・ ・

・ ・ ・ ・ ・  
・ ・ ・ ・ ・  
・ ・ ・ ・ ・  
・ ・ ・ ・ ・  
・ ・ ・ ・ ・  
・ ・ ・ ・ ・  
・ ・ ・ ・ ・

さつき苦しかったのは赤ん坊だからだったらしい。

「おぎゃ、おぎゃぎゃぎゃぎゃ おおぎゃおぎゃぎゃおぎゃ（ありや、ここどこだ？あれえなんか股間に違和勘あんだけど）」

「よかったな、女の子だぞ夏緋！」

洪めのおっさんが、母親であろうう人（夏緋）になみだながら話しかけている。おそらくこの人が父親なんだろう。

「おぎゃおぎゃぎゃぎゃ!? (んっ?っーか女?マジで!?)」

「ほんとうによかったです。詠瞬えいしゆんさん」

俺が生まれたことを本当に喜んでくれている。よかった。

「君の名前は歩イッ姫だ!!よろしくな歩イッ姫」

正直な話、この人はちよつと危ない気がする(いろんな意味で……)

ふと、俺は思った。この人たちよく見るといたるところに武器を携行しているようだ。だてにミリタリマニアやっていたわけではないぜ。

父さん（詠瞬）は見た限り、右に重心かけてるからおそらく足にサバイバルナイフか銃を左腕はわずかに膨らみあるからG26でも携帯しているんだろう。ポケットの丸いふくらみは手榴弾だろう。どんな装備だよ、ゴルゴ13かって！！

母さんもおんなじで 手術着なのに武器を携行しているのはなぜだろう





もしかして俺、やばいところに生まれた？

生まれたことをたまに後悔するよね。

1993年2月22日

byイブ

**【0人目】俺（イブ）誕生！！（後書き）**

今回は8歳からスタートです。

コメント楽しみにしています。

【1人目】力をつけてます!!（前書き）

フィクションです!!。 実在の方がいらっしゃっても、 実在の事件があっても一切関係ありません。

【1人目】力をつけてます!!

現在の自分のスペック

名前【歩姫<sup>イフ</sup>】

年齢【12歳】

精神年齢【28歳】

性別【女】

容姿【黒髪で長さは腰くらい。顔は可愛い方（正直な話、幼女好きにはたまらなそう。）】

身長【150cm】

能力 射撃S+（エアガンの場合SS+）

精密射撃SS

筋力B+

視力S+

潜入・変装SS+

勘SS+

洞察力A+

趣味【ミリタリー】

在住先【日本 沖縄】

その他・備考

6カ国の言語を完全マスター（日本・中国・ロシア・英語・スペイン・フランス）

漢検1級

英検1級

柔道・剣道・中国武術など武道はほぼ習得済み

まあ、とりあえず今の俺は8歳。

5歳くらいから親（詠瞬&夏緋）の猛特訓が始まった。勉強のほうは、遺伝子のせいからすらとできた（銃器に関しては夏緋に「あなたすごいわ！」って言われまくった元から知識あったしね）。だが女の体ゆえか、子供の体ゆえか知らないが筋力がまったくつかない。なので射撃の際反動でどうしてもあたりにくくなる。

えっ なぜ射撃の練習ができるって？そりゃ簡単、家の外見はちとでかいが3階建ての普通の家。本当は家が地下5階まであるのだからしかも地下5階はなぜか核シェルター。

簡単に家の割り振りを言うと

- 3階・・・俺の部屋
- 2階・・・詠瞬&夏緋の部屋
- 1階・・・リビングとか（地下への隠し階段はいたるところに）
- 地下1階・・・監視室&通信室&装備・服
- 地下2階・・・武器庫（入ったことがない）
- 地下3階・・・トレーニングルーム（いつもここで訓練&勉強）
- 地下4階・・・研究室らしい（はいつたことがない）
- 地下5階・・・核シェルター&食料・水庫（夏緋の話しじゃ半年は大丈夫らしい）

こんなかんじだ。俺がとりあえず調べたところいたるところに銃がしまつてあつた（笑）

壁には鉄板が仕込んであつたし（壁に穴を開けようと開けたら気づいた）。007もまっさおだな（笑）

親が殺し屋だと聞いたのは、5歳。親の話では隠し切れないという理由（5歳のある日、両親の装備品をいいあてたため わざと）親の職業は表向きはかなりもうけている実業家となっている。

敷地は10000ほど（いたるところにブービートラップ、監視カメラがある）トラップに1度引っかけたが死に掛けた（トラウマ）

年収はかなりとなっている。

小学校の学年は今3年生。学校では全てにおいてトップ（元高校1年生ですから）。

あっそうそう。私の家にはメイドが1人いる。名前は【ハル】。年齢は15歳だそうだ。彼女も裏世界の人間だった、7歳のとき詠瞬に紛争地帯でひろわれたらしい。それ以来地獄の訓練を受けてうちのメイドになったそうだ。控えめでやさしくて、俺をよく可愛がってくれる。一応彼女は日系の中国人、見た目は日本人と変わらない。

一応、知っている事。

名前【ハル】

年齢【15歳】

性別【女】

容姿【黒髪でショート】

身長【165cm】

能力 射撃S+

精密射撃S+

筋力S+

視力S+

潜入・変装S+

勘 S+

洞察力SS+

趣味【コンピュータ関連】

在住先【日本 沖縄】

その他・備考

6カ国の言語を完全マスター（日本・中国・ロシア・英語・スペイン・フランス）

漢検1級

英検1級

柔道・剣道・中国武術など武道はほぼ習得済み

アメリカの国防省へのハッキングを1分でできるらしい。  
潜入先の調査が得意らしい。  
神崎家の唯一のメイド兼 俺の相棒。

今度、9月に私の初仕事があるようだ、その際の相棒がハルだ。その時はがんばろう！。

最近、きずいたのだが時間がさかのぼられているのである。元にした日時は2010年。今は8歳で2001年。

あれ、9月の仕事って……もしかして……  
……行き先、アメリカだし……あれえくん  
(・3・)?

まあ、細かいこと気にしたら負けだな。



俺の部屋はいろいろと8歳ながらすごい。隠しボタン（パスワード式）を押すと自慢の改造エアガン（実弾発射可能なはず・・・設計上）がずらりと出る。（システムは全て自作）

なぜエアガンが多いかという月の小遣いが20万ほどなので

銃が出てなければ普通の部屋というわけではない。ゴスロリ系がすごいのだ。断じて俺の趣味ではない！夏緋の趣味なのだ。なんでも「女の子だもん、可愛くしなきゃ」だそうだ。何度も庭に放り捨てて、燃やしたことがあるが学校から帰ると必ず置いてある。

そんでもって最近 諦めている。

もちろん普段着もゴスロリ。ピンクはさすがにやめてほしいので黒にしてもらった。

最近、母の趣味がわからない

2001年6月21日

b y i p

【1人目】力をつけてます！！（後書き）

射撃

筋力

視力

潜入・変装

勘

洞察力

の6つは最高がSSプラスです。全部B+が普通の大人です。（ちなみに親は2人ともSS+です。）

【2人目】俺は殺し屋じゃない。

今年、7月のはじめ。詠瞬と夏緋の両方が仕事で亡くなった。

とても俺は悲しかった。

親が亡くなるということがまじかでおこったのだ。



はじめて、泣いた。

そんな俺をハルはなぐさめてくれた

すてきなスマイルで











いつまでも、くよくよしてられないので状況を冷静に考えた。親

が亡くなった事は幸い、俺とハル以外には知らされていない。

実際、葬式をやったわけではない。任務先の海上プラントが木っ端微塵になって、消息が不明なのだ。2人が3日も連絡をよこさないことはいままで一切なかったのだ、その2人でさえ連絡をよこさないとなると……

いや、考えすぎだ。いい方向に考えるんだ・

ハルが1通の封筒を手渡してきた

「イブ様……これを……だんな様が連絡をよこさない時はと……」

真剣なまなざしで俺を見つめてきた。

封筒の中には1枚の手紙となんらかのカードキーと家の鍵のようなものと通帳と印鑑だった。

手紙の内容は以下のとおり、父の、詠瞬の筆跡だった。



瞬より。

- - -  
- - -  
- - -  
- - -  
- - -  
- - -  
- - -  
- - -  
- - -  
- - -  
- - -  
- - -  
- - -  
- - -  
- - -  
- - -  
- - -  
- - -  
- - -  
- - -  
- - -  
- - -

読み終えた。

うれしかった。こんなにも気使かってくれて・・・

「ははははは、私もがんばらなくてわな  
自然と言葉が出てしまった。」

「屋敷に戻るぞ！ハル！引越しの準備だ！」

「りよ、了解しました！マイ・マスター！！」

俺が明るくなったのがうれしいのか、元気に声をかえしてくれた。

〈屋敷〉

今は俺が地下へ木箱（銃とか突っ込む用）を担いで地下に向かっている、ハルは生活用品を庭にある武装、光学迷彩搭載済み輸送ヘリに積み込んでいる最中だ（すでに俺の部屋のはすべて運び込んだ）。



↓地下2階 武器庫↓

はじめて入る。

カードキーを通すと自動的にドアが開いた。

(す、すげえ銃がキレイにならべておいてある。P90や、M700 俺の好きな銃がいっぱいある。)

端っことから銃を木箱に積み込んでいる。

あれから1時間最終的には1辺が3mの木箱が30個ほどひつようになっただ。

ガンマニアの俺はもう目から汗(涙)がとまらない

一番、積み込むのに苦労したのはRPG7だ。下手すると爆破しかないし……

(えいご、おとこ)

荷作りは力仕事です。大変なんですよ！！

2001年7

月2日

by 八ル

【2人目】俺は殺し屋じゃない。(後書き)

なかなか任務へいきません(泣

5月23日誤字修正

## 【3人目】新居

現在 7月2日午後0時

（屋敷1階）

すっかりハルのほうは終わったようで昼食で使うもの意外が積み込まれていた。

（飛ぶんだらうか あれ・・・）

内心、ちょっと心配した。

（そういえば、向こうの家にへりが着陸できるところがあるのだからか・・・）

「ありますよ マスター。向こうの屋敷は1度だけ行ったことがあります。が広がっていいですよ。」

「ハルってエスパー？」

まじで思ったよ

「違いますよ。マスターの顔を見ればわかりますよ。」

くすくすかわいらしく笑った。

絶対に任務で死なせはしない。この笑顔をまもってみせる。と知らず知らずのうちに思ってしまった。

「そっいや、ハルのほうは終わった？」

昼飯（今日はハルが作った日本食、これがうまいんだよ）を食べながら、聞いてみた。

「はい、一応 このテーブル等を積み込めば終わりです。マスターのほうは？」

「ああ、後は運ぶだけだ」

午前中で武器、装備品などを木の箱につめ終わった。あとは詰め込んでいる最中にみつけた搬入用エレベーターを使ってへりに積み込むだけだ。

「では、午後には出発できますね」

あつまた、ハルが笑い出した。

「俺の顔になんかついてるか？」

あせって、まじめな顔にしようとしているが笑いがとまらなそう  
だ。

「えっいえ、いや マスターと一緒にいらっしやるとどうしてもか  
わいらしい女の子ではなく、男の子と話しているという感覚がある  
ので」

ちよ・・・

「元からだ、きにすんな」

ばれないように振舞う。

余談なんだが、装備品にいろんな物を発見した。光学迷彩とかソレ

トトレーターとかすぐくね？

もう一つの余談なんだが、屋敷に帰る途中、通帳の額を見たらすごいことにめんたまが飛んでいきそうな額のマネーが入っていた。あとでつくかお と思っていたらハルに「マスターは無駄づかいするので、あずからせてもらいます」と、財布ならぬ通帳の紐を握られてしまった。orz













（へり内部）

現在 7月2日午後4時

やっと荷物がまとまり、今はちょうど屋敷の真上に飛んだところだ。  
あと少してショータイムだ。

何がショータイムかというと、どうせ壊すんだしという俺の案によ  
り、家の中（地下と柱中心に）に  
c4を仕掛けまくった（家にあっただけ）。

「ハル、もう爆破していいか」

操縦をしているハル聞いた。

「えっ本当にやるんですか!?!」

冗談だと思っていたらしい。

「やるよ!ファイヤ」

ぽちっつと、起爆装置を押した。

DOG GGGG AAAAAAAAAAAAAAAAAA  
AAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAA  
NN!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!

ありゃ、ちと火薬の量が多かったかな？音が派手だったなあ（花火と比べもんにゃない）、やべえお隣さん（アメリカ軍基地）に被害が。

まあ、帰ってこないしいいか……



そうして、埼玉へ向かった。

くへり内部く

現在 7月2日午後5時

「ねえくハルくまだあく？」

ハルと俺は今機内のソファに腰掛けている。

えっ？操縦はどうしたって？そりゃ自動操縦だもん。

「マスター？その質問、何回目だと思います？」

「えくと、124回目？」

「いえ、違います。156回目です。後1時間半ほどで到着だと思われますよ」

「ん」

俺は膨れる。だってつまないんだもん

んっ!!あのドアは？

「ハルあのドアは？」

ドアに指をさしながら聞く

「あのドアは後ろの荷物庫へと おわぁ!?!？」

俺はその話を聞くとすぐさま入っていった。だってねえ、積み込むのが忙しくて銃をよくみてないんだもん。(練習時はM92FとSVDとAK47だけだったし)



『マスター、そろそろ到着です。』  
機内にハルのアナウンスが流れる。

今きづいたのだが、いつの間にかに時間がかなりたっていたようだ。

機内中央に戻るが、ハルがいない。着陸のため操縦席に戻ったようだ。

目の前にパラシュート、ヘルメットとか降下グッツを見つけた。

「うん、あれだ降下グッツが目の前にあるのがわるいんだ」  
そういいながら俺はそれらをつける。服はびちびちのキャッツアイのようなタイツだがたしか風が当たらない仕様になっていたのはいだろう。

ヘルメットに無線が内臓されているのを見つける。おそらく操縦席につながっているであろう。

俺はハッチをあける

ウィーン

SIDE ハル

『マスター、そろそろ到着です。』

アナウンスを流した。席にまともに着いてくれるのだろうかという心配をした。

マスターは幼少のころから手間はかからなかったがいたずら好きだったからだ

ピィ ピィ ピィ

無機質な音できずいた。

ハッチが開放されている。

あわててアナウンスを流す。

『ま、マスター！！なにやっているんですか！？』

『今からバーチャスミッションを開始する 鳥になってくるぜ！！』

『何を意味のわからないことをいって あ・・・』

マスターが飛び降りたのを操縦室からみえた。

ソレとともに叫び声が聞こえた。

『ぎゃあああああああああ!!

』!

S I D E O U T

『ぎゃあああああああああ!!

』!

みすつた、ここまで怖いとおもわなかった。

それも10秒でなじんだ

「すごい俺の適応能力」

自分の適応能力の高さに驚いた。

ところで新居はあのうちにすんでたときよりでかいあの屋敷のことかな? いやそんなはずは……

『そのとおりあの屋敷が新居でございます。』

MAZIDE?

つか、ハルは本当にエスパーではないのか？

本日、午後7時に「ハルは本当にエスパーではないのか？」疑惑が発生した。



あれえ？（・3・）何で屋敷の広場の所に人がいっぱいいるんだろ。



よい子はへりからは飛び降りないよつにね

2001年7月2日

イブ

b  
y

【3人目】新居（後書き）

ながいかな？

今、ネタの考案中です。しばしおまちを  
できれば感想や意見をもらえると私はとってもうれしいです。

感想まっています。

誤字修正5月23日

【4人目】メイドがいっぱい。

取り合えず、中庭に着陸。

《はじめまして、ご主人様！！》

着陸とともに約400人程（空から確認）の聲が待っていたかのよう  
に勢いよく聞こえてきた。

キヤーキヤーいわれながらメイド（？）たちの中のみこまれてい  
ると

へりがやっと下りてきた。



鬼<sup>ハル</sup>神の参上

「マスター、なぜ私に無断で降下したんですか？」

ハルは拳をつくりながら聞いてきた、おそらく殴られるであろう・  
ハルは怒ると鬼神になる。そうなる今俺では対抗手段が1つしかない

その手段とは話をかえることだ。これで収まってくれればいいが・

「いや、ねえ はははは そっいえばハル、この人たちは？」

さてどうだ・・・

少しの間沈黙が続いた。メイドたちもハルの鬼神のオーラに侵されているのだろう。

「はなしのすり替えですか？・・・まあ、いいでしょう。これはまた今度ということだ」

ほっとしたが後が怖い。次の言葉からは普段の顔に戻っていた。

「このメイドたちは私が指揮した、マスターのメイド隊です。この



メイドたち1人1人は私と同じく詠瞬様にひろわれ、教育された精鋭たちです。マスターのお世話や情報処理から潜入のサポートまで何でもできるメイドたちです。ここには400人しかいませんがもう100人います。ですがその100人は警備等に回っていますので合計500人おります。端から 身の回りのお世話部 食事部 情報処理部 潜入部 警備部の以上の5部となっております。」

メイド服の色が異なったり、戦闘服などになっている。

まえにハルを含めた6人が出てきた

「身の回りのお世話部の代表 メイです、よろしくです。」

「食事部の代表、ナナです よろしくお願いします主様」

「情報処理、武器装備開発部の代表・・・リニア・・・よろしく・・・」

「潜入 斥候部代表です。潜入・斥候に関してきいてくださいね、僕の名前はユイだよ。」

「警備部の代表です。警備はおまかせください。名前はラス これでも女ですからね。」

「ではあらためて、マスター。メイド長になりました、あなたのメイド兼パートナーです。」

それぞれが挨拶が終わった。

「私たち6人はマスターの直属のメイドです。各部の報告はこの直

「属のメイドが報告しますのでよくおぼえておいてくださいね。」

「では、マスターこっちにきてください。お仕置きです。たぐぷり可愛がつてあげますよ ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ」

怪しいぞハル！あれハルってこういう人だっけ？

俺は首根っこをつかまえられ、屋敷に引きずられていった。

なぜだ、みんななぜ道をあけるんだあ—————

—————！！

その晩屋敷中俺の音がひびいた

ブ

もうお嫁にいけない

b  
y  
イ

【4人目】メイドがいっぱい。(後書き)

ハルが百合にめざめちゃった

これ18禁じゃないよね？

感想待ってます。

## 【5人目】おねむの時間（前書き）

滞っていてすいません！！

書こう書こうとおもっていて更新できなかつたス。すいませーん！！

感想もらえれば幸いです。

今後、更新が15日以上なかつた場合 催促のコメントをもらえる  
とたすかります。

では本編をどうぞ！

【5人目】おねむの時間

もう、お嬢に・・・じゃなかった、お嫁にいけない・・・

といっても、9時間ほど腕立て伏せを 2秒に1回のペースで背中にハルを乗せてやっていただけだよ。



- 7月10日20時30分 -

あれから1週間と1日、やっと、『ハルのヘルレツスン・イブ様  
騷編 -』 & 屋敷内とメイドたちの顔を覚え終わった・・・

いや、顔を覚えるの不可能かな？と思っていたんだけど、普通にで  
きたさすが俺のウルトラ頭脳！！

それは、まあ置いて

(.....の書類の.....)

今、俺は図書室みたいなところにいる。俺の仕事部屋らしい・・・、そして今ゴージャスな回転いすに座っている。

「マスターが片っ端から片付ければいいことですよ」

「ハル、お願いだから心の声につっこまないでくれる?」

「マスターがわかりやすい顔になっているからです、なんとかしたらどうですか?」

「うっ!!!・・・善処する。ところでこの書類は何なのお?」

俺はイスで回りながら聞く。

「それは各部署の報告書類です。細かく言うと 8日前にマスターが爆破した家の片付けの報告、マスターが7日前に壊した花瓶類の損害額の報告書、マスターが1日に食べる量を作るのに必要な食材がたりないとの嘆きの報告書 等等です」

(うっ、ほぼ俺が悪いみたいじゃん)

ハルは目を細めて、はっきり言う

「まったくです。それに《ほぼ》ではなく《すべて》です」

(もう、ハルについてはあきらめるよ・・・)

- 9時00分 -

黙々と片っ端から読んだ

よい子は寝る時間だ、もうねるか

そうして、俺は夢の中へ。

しよせん私は小学生・・・

2001年7月10日

b y i p

【5人目】おねむの時間（後書き）

短くてすいません。

ごめんと待ってます

**【6人目】武器庫見学in地下室(前書き)**

書いたのが約1ヶ月前って・・・

コメント欲しいっす。



【6人目】武器庫見学in地下室

7月11日 午前8時

- 食堂 -

「マスター、本日の午前の予定は先日 武器庫に 武器・装備等収納しおわりましたので、武器・装備品の紹介とさせて頂きます。」

朝食が終わった直後 毎日恒例の1日の予定確認がおこなわれた

「ああ、ハル」

「ではこちらへ」

ハルについていく。本当は場所ならわかっているがノリでね。

午前8時10分

- 武器庫 第一区 -

ようやく到着した。食堂からは真反対だったので10分もかかるって、いまさらだけど どんだけ広い家だよ

「ここです。この場所以外にも第二区、第三区とあらゆる場所に設置しております、一応 場所をお知らせしておりますよね？」  
首をかしげながら聞く。

かわええなあゝ

「きいているよ」

「そうですか。武器庫はどれもおなじ数と種類が入っておりますので、説明はここだけでいいですよ？ では手前からおくに説明しておきますね。まあ、手前は普通の銃です。ガバメント、ベレッタ等のハンドガンから始まりM60、RPGという幅広く、3丁づつそろえております。こちらの弾薬をご覧ください」

そういわれ、ハルの手から弾薬を6つをうけとる。

「みたところ普通の弾薬のようだけど・・・、強いて言うなら薬莖のいろが違っただけだね」

「ええ それぞれ開発部により特殊な加工がされておりまして、口径のほうは全銃が使えるようにそろえております。それぞれに薬品が入っており色により効果がちがいます。赤の薬莢が発狂弾です。相手を発狂させることができます。青が麻酔弾です。象でも1時間は眠れるようになっていきます。人間の場合1日起こされない限り起きません。黄色が爆笑弾です。打たれると笑いが止まらなくなります。白は煙幕弾です。物に先端部分が接触すると白煙幕が発生します。ハンドガンの場合15分程度もち、ライフル・重火器等は45分程度です。緑が神経弾です。1時間ほど全身の筋肉が一切動かなくなります。そして最後の黒の弾薬ですが、即死弾です。どの部分を撃つても必ず1分足らずで死に至ります。黒だけは十分気をつけて扱ってください。ああ、それとこれは私からのプレゼントです。」

1丁の銃を手渡された。

その瞬間、俺は目を見開いた。

「ありがと。！！これはガバメント だけどこれは、よくカスタマイズされ、整備されている。握りやすく加工されたグリップ。きわめつけは……」

つい某ゲームの蛇さんのように力説してしまった。

「私が趣味でカスタムしていたもので不要になったものですが、気に入ってもらえたようで幸いです……」  
俺の豹変振りにおどろいたようだ

「では、つぎはこれです」

一着のフード付きのロングコートを出してきた。

「こちらは光学迷彩です。これさえあれば、周りの風景と同化できますが、動いたり話したり足音を立てたりすると気づかれますのでご注意ください。」

「へー、すごいなあ」

光学迷彩を着て消えてみたりして着たり脱いだりを繰り返している。

「ほかに、新作の装備品が在るのですが、任務の際に説明しますので、どうしてもという場合はきいてください。では1番倉庫のほうへ」

案内され、1番倉庫の方へと2人は歩いていった。

武器庫って楽しいね

2001年7月

11日午前10時

byイブ

【6人目】武器庫見学in地下室（後書き）

みじかいですね

コメント待ってます。

【7人目】ぴっかぴかの6年生（前書き）

へり等がよくわからないので若干とばしました

## 【7人目】ぴっかぴかの6年生

2001年7月11日午前11時30分

「いや、すごいへり・戦車の数あったな。何機あったんだ？」

先程、倉庫を見てきた。

「130台つつあります。」

すごいなそれ、維持費いくらかかるんだか。となるとこの屋敷のメイド+ハル+俺だと全員で約1機に4人乗れんな

「何かマスターにあつたらこちらのメイド全員で向かいますので」

「だから毎度いつてるけど、考えていることにつっこまないでまあいいや」

「マスター、そろそろお昼なので食堂へ」

「わかった。」

そう残してハルと2人で食堂にむかった。



ちよつと昼飯が終わった。

7月11日午前12時30分

- - -  
- - -  
- - -  
- - -  
- - -  
- - -  
- - -  
- - -  
- - -  
- - -  
- - -  
- - -  
- - -  
- - -  
- - -  
- - -  
- - -  
- - -  
- - -  
- - -  
- - -  
- - -  
- - -  
- - -

「いや、今日の海鮮丼はつまかった、ごちそうさま」

「お粗末さまでした。主様」

食事部のナナが皿をとりってきていた

「ハル、そっぴゃ午後の予定って何だっけ」

となりでなぜかお茶してるハルに話しかける

「あれ、言ってませんでしたっけ？午後は小学校に行っ、教職員にあいさつですね。」

「ふん、小学校か。へ．．．って！？小学校！？」

「はい小学校です。マスターは本来ならもう小6のはずでしょう？いろいろ文部省がうるさくて（本当ならマナーにものをいわせて、いなくてもOKにできるんですけど私的にはランドセルしよったマスターが見たいので）なので行ってもらいます。では服を着替えてもらいますね」

・ ハルに引つ張られなぜか武器庫（装備品がおいてあるところ）に．．

- . . . . .  
- . . . . .  
- . . . . .  
- . . . . .  
- . . . . .  
- . . . . .  
- . . . . .  
- . . . . .  
- . . . . .  
- . . . . .  
- . . . . .  
- . . . . .  
- . . . . .  
- . . . . .

「さ〜マスター。きがえましようね〜エへへへへへ」

ハルが怖い狂ってる。俺の素っ裸を見てにやけて笑ってる。身の危険を感じるぞ

5分後

「見たところ、普通の服のようだが・・・」

今、着ている服とかはジーパンに、カジュアルな黒のチェックの上、運動靴のいたって普通の服だ。変わってるといえば裝飾品がイヤリング、指輪、上着の中のホルスター、足にナイフ固定用の鞘があるくらいだ。

「まさか、普通の服のわけがありません」

普通のハルに戻った

「服は、開発部により超薄型防刃・弾服となっており、裝飾品のイヤリングは球体の部分を紐から引きちぎると閃光手榴弾になり、指輪は私たちメイド隊の回線につながっている通信機となっています。世界中どこへ行っても通話はできるので、何かありましたら使ってください。」

「これを」

ハルにランドセル（赤）にG26を渡された

「これを必ずもって行ってくださいね」

「いや、G26はわかるけど何で必ずランドセル？」

「これも、特殊加工されています。これは防弾盾となっています。それにランドセルのそこにはハンドガン1丁と手榴弾系が2個入るようになっています。」

「まあ、わかった」

もうあきれた、ドンだけすごい小学生だよ

「では如月大学園にいきましょうか」

内心、如月大学園ってどこだよとおもいながらヘリポートに向かった

午前1時30分

2001年7月11日

小学校なんてぐすん・・・

イブ

b  
y

【7人目】ぴっかぴかの6年生（後書き）

感想ほしいです

誤字修正 5月23日

【8人目】学園都市【如月学園】（前書き）

まあ、ここに出てくる登場人物は知人をモデルにしてたりし、学園自体存在しない架空のものとし書いております。

では、本編をどうぞ。

## 【8人目】学園都市【如月学園】

2001年7月11日午後1時40分

現在【如月学園・門付近】上空

「ちょっと ハル！ どんだけ広いんだよこの学校。門からヘリで5分も飛ばしても校舎がみえないって」

そうだ。今 俺はハルにつれられ職員（担任）に挨拶するためヘリで（この時点で常識外れ）向かっているのだがさっき言ったとおり、門から5分も飛んでるのに校舎がみえないってどんな学校だよ。道に路線がひかれてて、駅まであった。ここ本当に日本か？

「あと、少しですね。」

あとすこしって、どんぐくらい？

そうして俺は外を覗き、風景を見ている。

この如月学園はどうやら普通の学校というより都市に近い印象をうけた。どうやら小学校がいにも、中学、高校、大学といくつもの学校が集まっているらしい。そのためか、窓からみえる人は学生ばかりだ。

なぜかショッピングモールから商店街まである。やはり都市というべきなのか。





-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-  
-

2001年7月11日午後2時00分

現在【如月学園 - 第1小等部 - のとある応接室】

ハルが校長に話をつけ、応接された。

だが、案内され入室したのがそれが1時50分 もう10分も待たされている。

校長にだされた紅茶を飲み干し（なかなかうまかった）いまはイスに胡坐をかき、貧乏ゆすりをしながら、ティーカップをカポカポと口で上下させている。

「マスター、お行儀が悪いですよ。」

隣のイスに座っているハルに叱られてしまった。

「ごめん。だってこないじゃん。」

「そうですねえ。もう来ていてもいいんですが・・・」

そう話していたら勢いよくドアがスライドする。

ガラッ

「すいませ〜ん！！遅れました！　ゼエゼエ・・・ワダジ　ハ　・  
ゲホッ」

黒のショートヘアの女性が入ってきた。おそらく担任だろう。

「あゝ、落ち着いてからでいいですよ。」  
やさしくハルは言う。

「すいません。ゲホッ　いやなんでもこの第1小（第1小等部）か  
ら第9大（第9如月大学）に出張していたので。　けっこう・・・ゲ  
ホッ　遠いんですよ　ゲホッ」

大丈夫ですか？この人

5分後。

先生 再起動

最初の印象と違いはきはきとしている

「私は神崎 吹雪だ。君の6・Cの担任をすることになる。基本全教科、うけもつことになっている。君は漢検とかの1級をもっているのかい？すごいなあ。君は明日から転入だ。明日の朝、また今日の職員室にきてくれ。」

「わかりました。ではまたきます。」

来た割には話している時間の方が少なかった。

そして俺たちは帰路についた。

【8人目】学園都市【如月学園】（後書き）

感想まっています。

言葉一部変更 5月23日

【9人目】 MY TALK (前書き)

かなり短いです。

【9人目】 MY TALK

2001年7月11日午後3時02分

- へり・内部 -

現在、帰宅途中のへりの中だ。

「それにしても、印象的（独特？）な先生だったな」

ちよつと豪華なイスに腰をかけながらハルに声をかける。

「はい、でもよかったですじゃないですか マスター、固い（頭の）先生は苦手でしょう？」

笑みを浮かべながら問い返してくる。

「まあね。そういうえば明日からってことは、自己紹介があるのかなあ、俺 そういうの嫌いなんだけどなあ」

「そうでしたね。やらなくちゃだめですよ マスター」

「はいはい、わかってますよ。」

しばらく、俺の学校が嫌いだトークが始まった。

生前（？）勉強が嫌いだった俺には学校は大嫌いなものの1つだったからだ。



「話がかわるけど、俺が学校行っている間 ハル達なにやってるの？」

そろそろ、学校が嫌いだトークをするのが飽きたので話を変えた。

ハルSIDE

「話かわるけど、俺が学校行っている間　ハル達なにやってるの？」

ギクツ！！

そ、その話題はまずいですね　（たべるとい意味じゃないですか  
らねっ！！）

口が裂けても、300人体制でお守りしなければなんて

話すと意味がないですからねえ

どうでしょうかあゝ

では、ごまかしまくりましょうか。

「私たちは基本、屋敷にいて雑務をやっておりますよ、なぜきいた  
のですか？」

「いや、なんとなくだ（いやな予感がしたんだな）」

ごまかせたようですね。気づかれない様に気をつけなければ  
「そうですね、ついたようですね」

そうして、私たちは屋敷へ入っていった。

学校は嫌いだ

2001年7月11日

byイブ



【9人目】 MY TALK (後書き)

感想待ってます。

一部修正 5月23日

## 【作者から読者へ向けてのアンケート】

実は、話を考えているうちに小学生より中学生のほうが話がすすめやすいことに気づき大幅に修正しようか迷っています。そこでアンケートを実施したいとおもいます。以下の選択肢からお願いします。

? 中学生から入学とする。

? 小学生から入って、一気に時間を飛ばす（初任務のほうは飛ばす前に書きたいと思います）

? このまますすめる

? その他（どういう風な進め方かお書きになってください）

お気軽に感想におかきください。感想もどしどしうけつけていますのでよろしくお願いします。

よろしくお願いします…!!

【10人目】 シミュレーションミッション (前書き)

意見がばらばらになりました。ん〜とりあえず閑話といつことでは  
うぞ

## 【10人目】 シミュレーションミッション

2001年7月11日午後9時00分

- 屋敷・シミュレーションルーム【アウトドア】 -

なぜ俺がここにいるかというと、「最近、なまっている気がするよ」と呟いてしまったことから「では、模擬戦やってみます?」という流れになってしまったからだ。

「マスター、ではシミュレーションを開始します。私はマスターの相棒を勤めさせてもらいますね。」

とりあえず、自分とハルの現在のシミュレーション用の装備を紹介しよう。

俺の装備は

服【迷彩服 市街地用（グレーの迷彩）】

武器【mk23（ペイント弾仕様）M4カービン・スコープ付（ペイント弾仕様）】

弾薬【mk23ペイント弾マガジン（1本12発）×5 M4ペイント弾マガジン（1本20発）×5】

装備【無線 グレネード（ペイント仕様）×3 ナイフ（刃先ゴム仕様）】

ハルは

服【ギリースーツ（緑茶色）下に黒迷彩】

武器【L96（ペイント弾仕様）M3カスタム（銃全体を切り詰め



軽量化 ペイント弾仕様) 1

弾薬【L96ペイント弾マガジン（1本10発）×4 M3ペイント弾シエル×50】

装備【無線 スモークグレネード×5 ナ이프（刃先ゴム仕様）】

の以上だ

（あるえくん？ハル、いつのまにギリをきたんだ。しかも完成度高いよ）

そう思っていると春が口を開いた。

「ではルールを説明します。この広大なフィールドを使用し、潜入のシミュレーションを行います。早い話がサバイバルゲームですね、勝利条件はここから1km先の的に1発当てるか破壊すれば勝利です。巻ける条件は敵のペイント弾にあたりと負けです。ちなみに敵は潜入 斥候部のユイさん率いる総勢30人です。でははじめまして。」

開始の笛が鳴った

• • • • •  
• • • • •  
• • • • •  
• • • • •  
• • • • •  
• • • • •  
• • • • •  
• • • • •  
• • • • •  
• • • • •





D A D A D A D A D A D A D A ! ! ! ! !

俺はm4を連射した。

同時に

ズキューン！ズキューン！

ハルの2発の弾が的の胸に見事に命中した。ほかの敵は狙撃ポイントに注意がいった

(よし)

俺は敵に向かってグレネードをありったけ投げ、2手に別れる前にハルから拝借したm3を手にグレネードが爆発した瞬間に装備(m4、mk23)をおいて突入した。

敵はまさかの奇襲の攻撃に動揺しているため木偶の棒状態だ

(右に1発)

ダンッ!!

敵の頭に命中

(左斜めに1発)

ダンッ!!

腹に命中

(これで最後だ!)

一番後ろの敵にショットガンを打ち込んだ。

「ハル。終わったよ、どうよ。」

あの状況で全員をヒットさせたのは満足がいった。

《さすがですマスター。ですが実践で無茶はやめてくださいね》

(おこられちゃったZe括弧笑)

「はいはい。とりあえず残弾確認するか」

M k 2 3 6 0 発

m 4 6 7 発

m 3 4 5 発

l 9 6 3 7 発

(結構、弾のむだしてんなあ。最後まで持つかな)

先を急ぐか。

(ん？待てよ・・・確かハルはこういつてたな)

勝利条件はここから1km先の的に1発当てるか破壊すれば勝利です。

(・・・、こっからの見えるし エアガンじゃなくて実銃のペイン  
ト弾仕様だから届くんじゃね?)

撃ってみると普通に辺り勝利した。

なんともあほな俺だったんだOTZ

狙撃って結構大変ですよ

01年7月11日

by  
ハル

20

【10人目】 シミュレーションミッション (後書き)

どうでした？戦闘を入れてみました。

アンケートの締め切りのほうは来週の金曜までにしたいと思います。

感想どんどん書いてください！！括弧笑顔



## 【読者へ向けて】と【キャラ設定・10人目時点】

すみませんでした。学業のほうが多忙でして、しばらく投稿できませんでした。本当にもうしわけありません。

引き続き投稿していこうとおもいますのでよろしくお願いします。

アンケートなのですが、答えてくれた皆さんありがとうございます。意見が分かれたので、自分の判断で2の方向にしたいとおもいます。

疑問 質問 感想をおまちしています。

以下【キャラ設定です。】

名前【歩<sup>イ</sup>姫】

年齢【12歳】

精神年齢【28歳】

性別【女】

容姿【黒髪で長さは腰くらい。顔は可愛い方（正直な話、幼女好きにはたまらなそう。）】

身長【150cm】

能力 射撃S（エアガンの場合SS+）

精密射撃SS

筋力B+

視力S+

潜入・変装SS+

勘 SS+

洞察力A+

趣味【ミリタリー】

在住先【日本 埼玉】

その他・備考

6カ国の言語を完全マスター（日本・中国・ロシア・英語・スペイン・フランス）

漢検1級

英検1級

柔道・剣道・中国武術・CQCなど武道などはほぼ習得済み  
愛用の銃 ガバメントカスタム（ハルにもらったもの。）

名前【ハル】

年齢【15歳】

性別【女】

容姿【黒髪でショート ほっそらしていてできる秘書っぽい】

身長【165cm】

能力 射撃S+

精密射撃S+

筋力S+

視力 S +

潜入・変装 S +

勘 S +

洞察力 S S +

趣味【コンピュータ関連】

在住先【日本 埼玉】

その他・備考

6カ国の言語を完全マスター（日本・中国・ロシア・英語・スペイン・フランス）

漢検 1級

英検 1級

柔道・剣道・中国武術など武道はほぼ習得済み

アメリカの国防省へのハッキングを1分でできるらしい。

潜入先の調査が得意らしい。

前神崎家の唯一のメイド 今は大量のメイドたちをまとめるメイド

長 兼 俺の相棒。

愛用の銃 L 9 6

名前【メイ】

年齢【14歳】

性別【女】

容姿【赤毛のロング、胸がHカップ お姉さんっぽい】

身長【160cm】

能力 射撃 B +

精密射撃 B +

筋力 A

視力 S

潜入・変装 B

勘 C -

洞察力 B

趣味【裁縫 生け花】

在住先【日本 埼玉】

その他・備考

身の回りのお世話部の代表

生活面は誰よりもなにをやらせてもつまみ

7歳のとき詠瞬にひろわれた。親両名ともに行方不明

愛用の銃 G 2 6

名前【ナナ】

年齢【13歳】

性別【女】

容姿【緑がかつた髪で身体は細くバストはまあまあ】

身長【155cm】

能力 射撃 C +

精密射撃 B

筋力 A

視力 C

潜入・変装 B

勘 A

洞察力 A

趣味【料理全般】

在住先【日本 埼玉】

その他・備考

食事部の代表

日本食が得意、料理は基本全部高級店のシェフ並み。  
好きなもの緑茶

愛用の武器 包丁

名前【リニア】

年齢【15歳】

性別【女】

容姿【銀色の髪、細身で貧乳】

身長【158cm】

能力 射撃 C -

精密射撃 S S +

筋力 C -

視力 C -

潜入・変装 C -

勘 A

洞察力 S S +

趣味【コンピュータ関連】

在住先【日本 埼玉】

その他・備考

情報処理、武器装備開発部の代表。無口。メイドの中で唯一拾われた前の経歴が不明。

なぜか、精密射撃での成績がいいが筋力がないため1ショットの反動で銃が飛んでいく。そのため斥候 潜入部に所属されなかった。コンピュータ、武器開発などの能力がすごかったため現在の部の代表をとめる。目が悪いため常時黒ぶちの大きなめがねを装備 特殊な仕掛けがある模様。

愛用の銃シモノフPTRS1941

名前【ユイ】

年齢【14歳】

性別【女】

容姿【オレンジのショート、どこにでもいそうな標準な体系】

身長【154cm】

能力 射撃 A+

精密射撃 S+

筋力 A+

視力 S

潜入・変装 S S

勘 S S

洞察力 A

趣味【銃器のカスタム】

在住先【日本 埼玉】

その他・備考

潜入 斥候部代表。おてんばで、人の話を聞かないためどじり易い

が任務になると別人。早い話が多重人格である。その一方 料理など家事が苦手。

CQCに特化しており、無音での任務遂行が得意。

愛用の銃 mk23

名前【ラス】

年齢【15歳】

性別【女】

容姿【青のロング。基本ポニーテイル 体はがっしりしているがボディービルダーのように筋肉はでてなくカッコイイ女性】

身長【170cm】

能力 射撃S

精密射撃S

筋力SS

視力S

潜入・変装B

勘 S

洞察力S

趣味【刀が好き】

在住先【日本 埼玉】

その他・備考

警備部の代表者。 武術などがかなりうまい。

刀を愛用しており、その刀で銃弾をきるなど凄い芸当ができる。

愛用の刀 日本刀（幼少のとき、自分で作ったもの）

愛用の銃 M3シューティ（自作）

各部の普通のメイドのスペック

身の回りのお世話部の代表

能力 射撃 B

精密射撃 B

筋力 A

視力 A

潜入・変装 B

勘 B

洞察力 B

食事部

能力 射撃 B

精密射撃 B

筋力 A

視力 B

潜入・変装 B

勘 B

洞察力 A

情報処理、武器装備開発部

能力 射撃 C

精密射撃 C



警備部  
能力 射撃 A  
精密射撃 A  
筋力 A +  
視力 A +  
潜入・変装 B  
勘 A  
洞察力 A

潜入 斥候部  
能力 射撃 A  
精密射撃 A  
筋力 A  
視力 A  
潜入・変装 A  
勘 A  
洞察力 A

潜入・変装 C  
視力 B  
筋力 C -  
勘 A  
洞察力 A



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5010k/>

---

自分の親は殺し屋でした。

2010年10月10日18時39分発行